

# 会 議 録

## 1 会議名

平成27年度第1回谷浜・桑取区地域協議会

## 2 議題（公開・非公開の別）

### 【協議事項】

平成27年度地域活動支援事業について（公開）

## 3 開催日時

平成27年4月13日（月）午後7時00分から午後8時00分

## 4 開催場所

上越市立公民館 直江津地区館 谷浜分館

## 5 傍聴人の数

0人

## 6 非公開の理由

—

## 7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・委員： 高橋誠一（会長）、安達ユミ子（副会長）、小林和代、小林奎一、  
齊京貴子、坪田 剛、荷屋和夫、平野宏一、横田正美（欠席1名）
- ・事務局： 北部まちづくりセンター：関川センター長、荒木係長、星野主任

## 8 発言の内容

### 【関川センター長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

### 【高橋会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：齊京委員に依頼  
議題「平成27年度地域活動支援事業について」事務局に説明を求める。

### 【星野主任】

- ・資料No.1により説明

・提案状況について報告

**【高橋会長】**

事務局から提案状況について説明があったが、今年度は比較的良い状況である。

私へは谷浜小学校のPTA会長から、金管楽器がだいぶ古くなってきているので、その補助が受けることができるのかどうか、という照会があった。他の地域協議会でも補助したケースがあるので、事務局と相談するよう話をした。

その他、25年度にゲートボール場に砂を入れてもらったが、またお願いしたいと相談もあった。

事務局の説明について意見を求める。

**【平野委員】**

加賀街道の整備についてはどれくらいの範囲を行うのか。

**【高橋会長】**

茶屋ヶ原の乳母嶽神社付近を中心とした加賀街道である。

**【平野委員】**

予算をみて、やる気のある人にやってもらえればよいと思う。

**【安達副会長】**

提案が出てきたら、もう少し施工距離を延ばしてみてもどうかと言った意見が、審査の時に出るかもしれない。

**【星野主任】**

乳母嶽神社から国道8号線に出る道の整備をしたいということである。

**【安達副会長】**

私は、提案書の写しを事前にもらい、今までも現場を見に行ったりしている。それぞれの委員も確認していただきたい。

**【平野委員】**

私は良いと思うが、加賀街道の全面整備となるとお金がかかる。

**【安達副会長】**

茶屋ヶ原から名立へ抜ける道は分からなくなっている。国道から茶屋ヶ原へ入ったところから乳母嶽神社の前を通過して茶屋ヶ原集落へ入ると、その民家で昔、明治天皇がお休みになったところである。

**【平野委員】**

その辺をやろうとしているのか。

**【安達副会長】**

名立から茶屋ヶ原に上がってくる道は分からなくなっているのです、そこまで手を付けるのではなくて、乳母嶽神社付近なのだと思う。

**【星野主任】**

国道8号線のバス停から上がってくるところも整備したいと聞いている。

**【平野委員】**

要望と言うとおかしいが、このことでこの地区の皆さんが活性化になるとか、こんなメリットがあるとか、委員が唸るような提案をしてほしい。

**【高橋会長】**

配分額500万円というとな相当な金額になる。今までは、城ヶ峰砦で結構お金を使っていたが、それを考えると、まだ残額が出ると思う。

**【関川センター長】**

1次募集で配分額に達すれば皆さんの負担もなくなる。

**【高橋会長】**

指定緊急避難場所の舗装や防犯灯をどれくらい付けるかによって、それなりの金額は掛かる。しかし、今の加賀街道も、直す程度では何百万の事業にはならない。

**【関川センター長】**

今、防犯灯の話が出たが、谷浜・桑取区はそんなに問題になっていないが、平場の田園地帯では、LED化の関係で、町内と町内の間は良いが、単一の町内会では駄目だとか、1つの町内を認めてしまうと全地域の該当となり、收拾がつかなくなるので、それは認めない方向にしようという話もある。ただこれは、谷浜・桑取区の中での考え方もあるので、その辺は、皆さんに御協議いただいて決めていただきたい。

**【平野委員】**

今の話は規則があるということか。

**【関川センター長】**

申し合わせである。参考までにお話しさせていただいた。

**【平野委員】**

小さな集落なら良いという話では困る。長浜は広い、4集落が合わさった地域だが、あちらこちらで暗い所がある。

**【関川センター長】**

全体を見ていただいた中で、その中で調整しながら決めるというのが一番良い。

**【平野委員】**

規則とか条例で決まっているような言い方をされると問題になるということを言おうと思った。

**【高橋会長】**

今までも、鍋ヶ浦が一町内と言っても、実際には海側と山側に分かれている。去年は有間川駅から丹原町内への2か所で実施した経過もある。それは前例で判断したり、地域の必要性を判断したりしながら、徐々に防犯灯の整理をしていきたい。

**【平野委員】**

委員が提案する訳にはいかないのか。

**【安達副会長】**

谷浜・桑取区では良いことになっている。去年もそうである。要項で「委員が提案団体の代表者や役員であった場合の審査への関わりについては全ての審査に参加する」となっている。

**【平野委員】**

地域協議会委員は、各集落から出てきているが、やはり発起人5名という枠はあるのか。

**【高橋会長】**

提案する時の基準で決まっている。

**【平野委員】**

町内が代表になると何の問題もなくなる訳では。

**【高橋会長】**

自分たちで団体を作ってやろうとする場合には、1人では駄目である。

老人会もいろいろと活動していて、今回、花壇の整備ということで出てきているが、広い範囲に球根を植えるとなると結構お金がかかる。今、老人会の人数も少なくなっていて、花壇の整備ができなくなっているのです、花壇を砂利で埋めたという町内もある。花壇があるところは大事にしていだければと思う。

**【安達副会長】**

昔は「花と緑のまちづくり協議会」から花がきたり、肥料がきたり、土がきたりとい

うことがあったが、今はそれがなくなって、10年くらい経つのではないか。

**【高橋会長】**

今もある。花の配布は割り当てでくれるのだが、苗が50本くらいしかこない。球根はこない。花壇にならないくらいの量なので、有間川町内会では買い足している。

**【平野委員】**

そういう意味を含めると、地域協議会委員で提案して、地域協議会委員で買って、各町内に配るということをやってもいいのではないか。

**【安達副会長】**

世話する人がいれば良い。

**【平野委員】**

世話する人は会長と副会長に。代表なのだから。

**【安達副会長】**

町内会のですか。

**【平野委員】**

違う。

**【安達副会長】**

地域協議会でということですか。

**【関川センター長】**

地域協議会として事業を提案するというのではなく、先ほど説明したのは、提案団体に委員が入るのは可ということである。

**【平野委員】**

だから、会長、副会長、委員で仲間になって、そういう活動をしたらどうかという提案をしている。委員としてではなくて、団体になって、世話する人は会長と副会長でやったらどうか、という提案をしているのである。

**【安達副会長】**

それは受け入れられない。

**【小林奎一委員】**

そこまでやると、地域協議会でやっているようになるから、1回離れなくては駄目である。

**【高橋会長】**

「たにはま公園」に植樹する事業を去年は提案しなかったが、ちょっとした木を植えようとするので40万円から50万円かかる。応募状況によっては、たにはま公園管理組合から提案されると思う。少し花が無い、桜やハナミズキを植えたいという話をしていた。

【小林奎一委員】

記念に残るものがある。

【高橋会長】

問題は下の土が駄目なのである。

【小林奎一委員】

質問だが、どこかの業者に植樹させ、何年か経って枯れたら場合には補植するなどの保証はあるのか。

【安達副会長】

それは、契約の仕方である。

【高橋会長】

多分、「創造の森」ということで、業者がやったところはずっと管理している。

【安達副会長】

年度を跨いで契約をすることは、地域活動支援事業を使うのは難しいかもしれない。

【高橋会長】

それは、最初の年のお金に入っている。

【安達副会長】

例えば、どこかの団体が植樹をしたいと申請した。その申請した業者との契約の中で土をどれだけ入れるとか、苗は何本とか、それを含めて、5年間の生存を保証するみたいなものまでできるのか。

【高橋会長】

それは、業者が事業を請け負った時の保険みたいになっている。

【関川センター長】

今、木の話をしているが、電化製品でも保証があるのと同じである。

【小林奎一委員】

木でも一緒である。ただ、いろいろと難しく、3年とか5年とか、上限があるのか。

【高橋会長】

値段が高くなる。単純に1本買うのではなくて、業者に頼んで保険を入れてもらって、管理すると管理費も含まれてしまう。

今、平野委員が言ったことと若干関係してくるかもしれないが、私が、たにはま公園管理組合の会長をしているから、審査の時は遠慮するかもしれない。

齊京委員は他の区で地域活動支援事業を活用して、いろいろとやっているのだから、できれば提案してもらって、料理教室か何か地域のためにやってはかがか。

収穫祭の人たちも一生懸命やっているが、なかなか新たなアイデアを出すというのが難しく、冊子は評判がいいが、何年か後にもっと良いものを作れば地域の中身が分かってくる。せつかくならそれを元に、レシピが充実してくれば「なるほど」ということになるだろう。

**【齊京委員】**

正善寺工房は冊子を500部作った。1冊2,000円。業者さんに写真撮りから全部頼んだので仕上げが綺麗で良くできた本になった。ただ、冊子本の作成にあたっては業者さんとのやり取りが難しいというのがあった。また、講演会を開催したが、100人募集のところ、106人来てもらい、イベントは大成功であった。

**【平野委員】**

それは、地域活動支援事業費で作成したのか。

**【齊京委員】**

そうである。100万円の事業である。イベント自体は100人規模で、来場者にアンケートも取ったが、『また来年も開催してほしい』とあった。冊子は別として、また、郷土食の講演会はやりたい。

**【平野委員】**

その発想で、谷浜・桑取区でも何かできないか。

**【齊京委員】**

もう少し郷土料理を発掘して講演会とか、写真をプロに頼むとかすれば、もしかするとPRになる。谷浜・桑取区でやるのもPRにはなると思うが、どこの団体にするかである。

**【平野委員】**

個人ではできないから5人以上の団体を作ってやったらどうか。

**【齊京委員】**

私はNPOという組織でやったので100人規模のイベントもできたが、5人で有志を募るとなると少し難しい。

**【平野委員】**

私は、谷浜・桑取区の補助金が余るのではないかと心配している。

**【安達副会長】**

今回、私も冊子をいただき、親戚に見てもらったが、横浜のデパートの食品担当をしている人が「桑取でこれだけの本が出せたのか」と、とても驚いていた。「写真も良いし、食材も良いし、デパートの食品部で取引してくれないか」、と言っていた。でもそこまでいなくても、地元で食べられれば良いと思った。評判は良い。今度はそれを活かした提案が出てくると良い。

**【高橋会長】**

かみえちごで作った「食のまかないガイドブック」は1冊500円くらいか。

**【星野主任】**

1冊200円ちょっとである。全部で22万6,000円、1,000部作成した。

**【齊京委員】**

正善寺工房で作った冊子はA4で作成した。

**【横田委員】**

A4くらいあったほうが見栄えがいかもしれない。

**【星野主任】**

サイズについて相談があったが、大きくすると金額も増えるが予算が飛び出た分は補助できない。持ち歩きにはこのサイズが良いということであった。

**【高橋会長】**

サイズの的にはちょうどよかったのではないか。

**【安達副会長】**

それを活かしたイベントなり、何なり、そういう提案が来れば良いと思う。

**【高橋会長】**

そういう資料は1回ではなかなか納得できるものがない。1回出してみて、みんなから意見が出て、また改訂版を出すということになればいい。去年、「売っているだけでは駄目じゃないか」という意見が出て、再提案をした結果、こういう冊子できた。それを元に料理教室を開催するなど、活動が広がっていけばいい。



**【横田委員】**

桑取・谷浜の衣食住で昔から伝わっている民俗的な行事もたくさんあるし、そういうものをうまく使って、体系立てて肉付けしながら行けば、A4くらいの立派なものができる。全戸に配らなくても作るだけでもいいかもしれない。

**【平野委員】**

谷浜・桑取にNPOがあるという話を聞いたのだが、今の発想と一緒に、そういうことをやってもらえないかという話である。

**【安達副会長】**

去年も、あれもこれも、後ろにNPOがいるみたいだっということが出ていた。

**【横田委員】**

私もいろいろ活動し、「夢盆」の役員もやったりしており、民俗馬行事も出ているので、話は分かるが、ただ、外から入ってきて5年や10年のところの、よそから来た人たちが、お爺さんからの生活のスタイルの価値をどう見出してアピールしていくところを、どうやってうまく取り入れていくかというのは、今回こういう試みはあったが、本当はこの地区を外にアピールするには、付け加えて行ってほしいという希望がある。ただ、自分ができるかというとなかなかできないので、よそから見て価値があることを、たまたま、今回作ってくれたので、何かの折を見て（今後も）できればと思う。

**【平野委員】**

提案が少なくて、500万円までいかないのではとの心配から、提案を出すだけ出してください、ということである。

**【横田委員】**

予算消化だけの活動だったら、1年や2年で終わってしまう。5年、10年かけてやっていくことが必要。この地区は人数が少なくなっているが、その中でもこの地区の価値自体は良いものがあるのだから、それを外にどうアピールするか、ネットを使うなり、本を出すなり、そういうことをNPOさんとかにお願いしたい。アイデアを出してくれるなら、いくらでも協力する。

**【平野委員】**

NPOさんに働きかけをしてはどうか。私たちもやる気がある。

**【横田委員】**

やる気はあるが、それに専念して、朝から晩までできるかと言ったらできない。

**【平野委員】**

NPOさんは「やってやろう」という話になっていないのか。

**【横田委員】**

なっている。なっているが、彼らは本当の桑取・谷浜は分からない。

**【高橋会長】**

実質的には、NPOさんがここへ来てくれたおかげで、行事もそれなりに手伝ってもらって進んでいる。収穫祭の人たちも高齢者が多く、収穫祭のお祭りをするだけでも大変である。町で売っている立派な山菜は値段が高い。自然薯だって折れていてもいいし、山菜だって不揃いでもいいから安くして、「くわどり収穫祭に行けば本当に安い」と言われるようにしてほしいと頼んでいるが、買う人の中には綺麗でないと駄目だと言う人もいて、出品する人も悩んでいる。

**【平野委員】**

そういう時は地域協議会委員が積極的に折れた自然薯などを買うということではないか。

**【高橋会長】**

私は、折れたのでいいから安くしてほしい。

**【横田委員】**

それも今までの既成概念で、大体、1kg2,000円とか3,000円という形で今までやってきたが、ただそれだと、買う層も限られてくる。贈答用に丁寧に包まなくても、1,000円か1,500円くらいのお徳用として求めやすい金額で販売したらどうかと言ったことがある。

**【安達副会長】**

一昨年、大淵の「鳥追い」で太鼓を買ったが、鳥追い唄というものも集落ごとに唄が違うため、再録する必要があるという話を西横山の人たちとしていたが、そういうものは形にするのが大変である。文化的なことも今収録しないと無くなってしまうと心配している人は結構いる。名立でも文化財をまとめた写真集ができたのを聞いて、いずれにしても、関心がない訳ではないが、なかなか提案までいかない。

**【高橋会長】**

その辺は私たちが地域の町内会長や団体に呼び掛けて、きっかけ作りをしていかないといけない。

話が違うが、谷浜小学校、潮陵中学校が少子化している中で、文部科学省による制度化に、小中一貫校として実施を目指すという方針が上越市で決まった。教育委員会では、地域に一小学校、一中学校という所についても、提案があれば考えていくという話である。桑取・谷浜の少子化の中で、小学校、中学校を一緒にしたほうが、一家に小学生、中学生がいる家庭から見れば、1回で行事が終わるので、家庭にしてもいいし、1つの行事に集中できる。少子化の延長線上で小中一貫校にすることで、さらに、子どもの教育環境を良くして、この地域に住む人が増えればいい。

できれば、湯沢町が幼稚園から中学校までを一緒にしたので、参考に見に行くのも1つの方法ではないか。学校のPTAや、学校運営協議会でも議論を始めている。私たち地域協議会とすれば、地域を元気にするという観点から、そういう方向でいろいろ協力していくことができないかと思う。

#### 【平野委員】

会長の話に関連するが、見に行ってきたことは事実。視察先の人に聞いたら「これは市が頑張らないといけない」という話で終わったが、市は頑張るのかという質問をしたら、検討中だということで、統合の話だって、私たちが考えても先が見えない。見に行くのはいい。さっきの話ではないが、実行が伴わなくてはいけない。見に行くという発想はいいが、最後のほうまで詰めてからでない。そこを見て、私たちがいいと思ったら、市の職員、市長に「どうですか」という話までしないと、見て帰ってきてそのままだったら、私たちの頭が良くなるだけで何にもならない。

#### 【高橋会長】

桑取の山間地でそういうことができればいいと思う。だが、相当お金が掛かる話だから、市としても厳しいと思う。でも、見てきて、中山間地に元気を付けるための1つの方策だということを地域協議会で見に行ってきたということは、市も無駄にはしないと思う。何かの機会に「谷浜・桑取の人はそういう考えをもっている」、デマンド交通なんか浦川原のほうでやっているが、それだって1つのきっかけになっている。学校の問題も地元の人が、中学校がなくなったら直江津に行ってもいいなどと言っているようでは、市も本気にはならない。立地条件から言えば、保育園もあり、こんなにいい場所は他にない。地域協議会でも子育て支援ということでずっと議論してきた。統合するとなると保育園が諮問された時と一緒に教育委員会から諮問がくる。だから、地域協議会もある程度、一定の姿勢を示す責任があると思う。

**【平野委員】**

そういう可能性もあるから、早めに見て来ようという話か。

**【高橋会長】**

まず見て、勉強しようということである。

他に意見はないか確認。

(意見なし)

次回協議会について事務局に説明を求める。

**【星野主任】**

・次回の協議会の日程について説明

(日程調整)

**【高橋会長】**

・次回の協議会：5月14日(木)午後7時～

・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL：025-531-1337

E-mail：hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。